

認知症専門施設「北白川の家の家」で実践

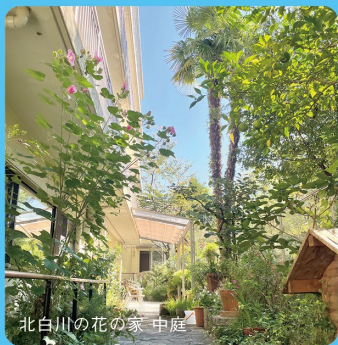
服は全て共用、施設が管理 おまかせ服



- ・その日に着るものをケアワーカーが選び、1人分ずつ箱に入れてお渡し
- ・寒がり、大きめが好き、この色が好きなど、その方の好みに合わせて選ぶ
- ・機能面だけでなく明るい色や流行を取り入れたものを担当スタッフが厳選して揃えているので、着てみたいという新鮮な気持ちやご家族の良い反応につながり服へのこだわりが強い方も楽しく取り組んでいる

全国で初めての取り組み

本文のマンガのような風景は、認知症ケアでは日常茶飯事です。認知症専門施設「北白川の家の家」では少しでも互いの負担を減らしたいと悩み 2022 年から衣類を全て共用化しました。服へのこだわりの強い方が受け入れてくださるの心配でしたが、始めてみると楽しさの方が大きかったようで、すぐに馴染まれ、元々あった混乱がなくなりました。「今日はどんなの？」と一人で着替える方、助け合いながら着替える方もあります。全国でもおそらく初のこの取り組みは、ご利用者のご家族が、ご本人の快適さだけでなくケアワーカーの負担軽減を大切に考え、共感してくださることで実現できました。とてもありがたく感じています。是非ご家庭でも参考にしてみてください。



～服は本人がしたいように、でない 「尊厳を奪うことになる」と考えている方へ～

服があふれる現代。元々ネットで自分の子どもの服を選ぶのが好きで、ケアする側の都合と本人の満足とが折り合いのつくデザインはあると確信していました。今回の共用化を始めてみて、いかに認知症の方にとって服を選ぶ・整理する・保管することが負担になっていたのかがわかりました。超高級ブランドの服を家いっぱいを持つ人も、おしゃれ上級者も、お金や家のことと同じように管理が困難になっていきます。服装へのケアが遅れると、体調だけでなく不安が激しくなり、他のトラブルへ広がっていくこともあります。本人の表面的な言葉やこだわりよりも、本当に「安心」「快適」「自分らしい」と感じられるのはどんな状態か周りが考え、管理することでお互いに負担や苦痛が軽くなることを少しでも知ってほしいと思いこの冊子を作りました。私たちはこれから未曾有の超少子高齢社会に突入します。これまででない知恵をみんなでも出し合い、より簡単で誰もが楽しんで暮らせる介護にしていきたいと思います。

漫画・文：西原のり子（日本のいのちの花協会代表・保健師・ケアマネジャー）